

国

語

(45分 100点) (解答番号

1

5

20

)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(30点)

昔から日本人は山を見ては「御山<sup>(1)</sup>」と崇<sup>(1)</sup>ハイし、きこりが山に入る前にはお祈りをして木乞<sup>(2)</sup>いをしてきました。このような<sup>(2)</sup>、あらゆるものに精<sup>(3)</sup>レイを見る、「山川草木悉有<sup>(4)</sup>仏性<sup>(5)</sup>」という考え方は日本人のすぐれた感覚でしょう。

むずかしい理屈や教義など知らなくても、日本人には昔から自然に対する畏<sup>(6)</sup>れがあります。雷にも雷様と「様」を付け、風神とあがめたのです。これから先の地球環境の問題を考える上では大切なのは、二酸化炭素の排出量取引ではなく、自然<sup>(4)</sup>全体に生命を見る姿勢なのではないでしょうか。

ヨーロッパやアメリカ流の自然保護というのは、これ以上空気や水を汚して森を破<sup>(5)</sup>壊すると最も大事な人間の生活がもたない、人間を守るために自然を濫<sup>(6)</sup>費しないようにしようという考え方が根源になっています。

しかし、それではもうだめなのではないでしょうか。そうではなくて、草木の一本、一石、一草にも虫にも動物にも心があり、魂があり、仏性がある、森にも山にも命があると考える日本人の伝統的心性こそ、環境について考える上で根本的大転換をもたらす新しい思想として現代に大きな価値を持つのです。

先進国でありながら日本人が今なお備えているシンクレティズム<sup>(7)</sup>と<sup>(8)</sup>の感覚は、人間にとって貴重<sup>(7)</sup>な資産としてこの国の未来を支えていくものかもしれません。

これから先の日本は人口がへり、斜陽化<sup>(8)</sup>し、産業は停滞していくのです。経済成長だ、GDPが世界で何番目だと誇るのではなく、日本人が大事にしてきた精神世界の恩<sup>(9)</sup>ケイとそれが持つ可能性を、あらためて国内にも世界にもメッセージすればいい。ゆつくりと下降し、やがてはどこかに静かに着地する二十一世紀には、そういうことが大きな価値として歴史に残るのではな

いでしようか。

(五木寛之『人間の覚悟』による)

(注1) 「山川草木悉有仏性」——地上のすべての自然は、本来、仏としての本性をもっているとする仏教の教えをあらわした言葉。  
葉。

(注2) シンクレティズム——異なる宗教が接触し、交わり、融合した状態。日本の神仏混淆こんぶはこれにあたる。

問1 傍線番号①・③・⑨に該当する漢字を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

①  
③

- (1) 「ハイ」  
① 杯  
② 盃  
③ 俳  
④ 拝  
⑤ 胚

- (3) 「レイ」  
① 令  
② 礼  
③ 零  
④ 励  
⑤ 靈

- (9) 「ケイ」  
① 景  
② 恵  
③ 桂  
④ 敬  
⑤ 慶

問2 空欄番号(2)に入る語として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

- ① アニミズム  
② シャーマニズム  
③ ヒューマニズム  
④ リアリズム  
⑤ リベラリズム

問3 傍線番号(4)「自然全体」に近い意味を表す四字熟語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしな

さい。  
5

- ① 一衣帯水  
② 森羅万象  
③ 行雲流水  
④ 南船北馬  
⑤ 万古不易

問4 傍線番号(5)「破壊」の対義語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。 6

- ① 促進
- ② 養護
- ③ 建設
- ④ 管理
- ⑤ 改造

問5 傍線番号(6)・(8)の意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

7 ・ 8

(6) 濫費

7

- ① 使い尽くすこと
- ② しぼり取ること
- ③ むやみについやすこと
- ④ 公のためについやすこと
- ⑤ 必要な費用として出すこと

(8) 斜陽化

8

- ① 急激に変化すること
- ② 一瞬美しく輝くこと
- ③ 小さくなっていくこと
- ④ 消えてなくなること
- ⑤ 衰えていくこと

問 6 傍線番号(7)「重」と同じ読みをする語を含む熟語を、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

- ① 嚴重
- ② 重圧
- ③ 重厚
- ④ 自重
- ⑤ 過重

9

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(70点)

寺山修司<sup>(1)</sup>のもっとも新しい演劇に『観客席』がある。

ここでは、観客もまた観客を演ずる俳優とみなされる。もとより観客は決して俳優になろうとはしない。観客はそのような観念をただ楽しむだけで終わる。(10)、ここにもまた、一種の物語の中断、あるいは観客への問いの中断とでもいうべきものが期せずして成立してしまうのだが、しかし、この戯曲の衝撃はまったく別のところにある。

A

『観客席』という演劇を公演するということは、観客席そのものの(11)ことである。『観客席』とはなにか、それはどこからきたか。『観客席』という演劇が成立しえたということ自体のなかにすでに重要な問題がひそんでいるのではないか。

人はあたかも自明のように舞台と観客席を截然<sup>(12)</sup>と分かち、仕切られた観客席のなかに匿名の人間として腰かけている。そして寺山修司はそのこと自体の演劇的構造を問い、その問いそのものをひとつの戯曲として公演したわけだが、この公演が明らかにしたのは、そのような前提そのものがじつに(13)ということである。

現在のように観客席の成立はたかだかこの二百年のことにすぎない。この公演は、まずなによりも観客が不特定多数の匿名的存在でなければならぬことを前提とし、観客がまさに観客として以外の共同性をもちえないことを前提としている。(14)、たとえばある共同体の祭りにおいて公演されたり、あるいは観客として以外の共同性をすでに帯びているたとえば学芸会のような場で公演されたりすることはまったく不可能であるということだ。演劇史においてもこの前提がきわめて特異なものであることは明らかである。(15) (16)このような戯曲が成立しうるところにこそ時代の核心がひそんでいるといわなければならない。そして重要なことは、この特異であるはずの前提が、現代演劇の全域のみならず、現代芸術の全域をおおっているという事実である。

B

もとよりそれは事新しくいいたいほどのことではない。<sup>(17)</sup>観客がひとつの共同体に属しているかもしくはそれに準ずるようなものである時代から、分断された個が任意に集合して観客を形成する時代へと移っただけの話である。観客は横の連繫<sup>(18)</sup>を断ち切

られ、ただ作者あるいは演出家と対峙する。C 音楽における演奏会にせよ、美術における展覧会にせよ、本質的にはまったく同じである。そして、このパターンが確立したからこそ、演劇から映画産業へ、音楽からレコード産業へ、美術から複製美術出版への展開が生じたのである。言いそえるまでもないが、映画が発明されたので映画産業が成立したのではない。逆だ。映画産業が成立する基盤ができたことによって映画が発明されえたのである。あらゆる意識産業はこのパターンの成立によつてはじめて可能になったのだ。

そしていまや、演奏会はレコードのように聴かれ、演劇は映画のように見られ、あらゆる絵画はその複製のように見られている。

この、現在ではほぼ常識といつてよい事実は、しかしより (19) をつつみこんでいるように思われる。

横のつながりを断ち切られた観客席の成立こそ、じつは観客の内面の成立に対応しているのではないか。孤独な観客、孤独な聴衆、孤独な鑑賞者、そして孤独な読者の内面の成立に。D だからこそあらゆる芸術は内面へ内面へと向かうことになったのではないか。そしてすべての芸術が、個室におけるひそかな楽しみへとつぎつぎに転化していったのではないか。

内面という神話の展開は、意識産業の膨脹と見事に歩調を合わせている。そしてこのことは、「意味という病」と「貨幣という病」とが連関しているのみならず、ほとんど同根であることを示している。

こうしていまや夥しい内面の物語が流布され、それをなぞろうとする夥しい内面がひしめきあっているように思われる。内面、それこそは無限に意味を問いつづけようとする病にほかならない。それこそは過剰な意味を呼びこみつづける底なしの欠如にほかならない。内面とはまさに (21) なのであり、それがとりわけて困難なのは、病であることを忘れられた病だからである。

E

(三) 浦雅士『私という現象』による

(注) 寺山修司(一九三五～一九八三) 前衛歌人・劇作家。

問1 空欄番号(10)・(14)・(15)に入る接続詞の並びとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んで

マークしなさい。

10

- ① したがって——すなわち——むしろ
- ② したがって——むしろ——すなわち
- ③ むしろ——したがって——すなわち
- ④ むしろ——すなわち——したがって
- ⑤ すなわち——むしろ——したがって



問2 空欄番号

中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

(11)

・

(13)

・

(19)

・

11

(21)

）

14

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の

11 (11)

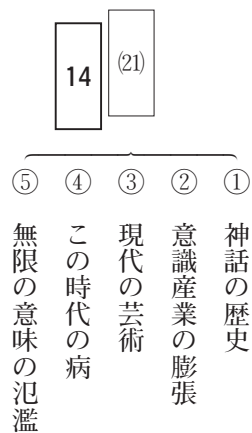
- ① 形式を変える
- ② 機能を高める
- ③ 起源を問う
- ④ 将来を見通す
- ⑤ 存在価値を調べる

12 (13)

- ① 正常なものである
- ② 普遍的なものである
- ③ 非現実的なものでしかない
- ④ 観念的なものでしかない
- ⑤ 脆弱ぜいじやくなものでしかない

13 (19)

- ① 根源的な問い
- ② 詳細な芸術論
- ③ 進歩する過程
- ④ 発展させるべき事実
- ⑤ 明確な問題意識



問3

傍線番号(12)「仕切られた観客席のなかに匿名の人間として腰かけている」とはどういうことか。最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

15

- ① 観客は舞台から切り離されているので、作者や演出家が意図するように観客の役を演じることはできず、ただ傍観者として座っている
- ② 舞台から切り離された観客は、どこのだれかもわからない人間の一人として、その演劇の作者や演出家と単独で向き合っている
- ③ 舞台と観客席が仕切られているので、舞台側から見れば観客は名前も顔もわからない人間の集団となってしまう
- ④ 観客席どうしが仕切られているので、観客はお互いにかかわりをもつことなく、名前も知らない全くの他人の関係である
- ⑤ 舞台から隔てられた観客席に腰かけている人々は、演劇を一方的に受けとるだけの非個性的な存在になってしまう

問4 傍線番号(16)「この特異であるはずの前提」とはどういうことか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマ

クしなさい。

16

- ① 観客は決して俳優になろうとはしないこと
- ② 観客席は舞台と観客を分けるために作られたこと
- ③ 観客とは観客席に腰かけている人々であるということ
- ④ 観客が観客として以外の共同性をもちえないこと
- ⑤ 観客席の成立が演劇の変化をもたらすこと

問5 傍線番号(17)「観客がひとつの共同体に属しているかもしくはそれに準ずるようなものである時代」の演劇に近いと考えら

れるものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

17

- ① テーマパークのミュージカル
- ② 野外の舞台で行われる能・狂言
- ③ 海外で上演された歌舞伎
- ④ 忘年会で演じられたコント
- ⑤ 文楽座の人形浄瑠璃

問6 傍線番号(18)「映画産業が成立する基盤」の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

18

- ① 映画が産業として十分成り立ちうるだけの大衆の富裕化
- ② 多くの観客を動員することができるようになる映画技術の発展
- ③ 芸術を鑑賞しようとする分断された個としての観客の存在
- ④ 作者や演出家と対等に語り合うことのできる観客の成長
- ⑤ 大衆を引きつけるだけの魅力をもった映画芸術の発生

問7 傍線番号②0 「それをなぞろうとする夥しい内面がひしめきあっている」とはどういうことか。その説明として最も適切な

ものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

19

- ① 芸術家の内面の物語の中に、孤独という内面的な問題の解決法を見出みいだそうとしている、多くの人々がいるということ
- ② 作者や演出家の作った物語中の登場人物の内面をまねて、自分自身を見失っている、多くの人々がいるということ
- ③ 芸術によって自らの孤独さを意識し、それを慰めるためにさらに多くの内面の物語を芸術に求めようとしている人々がいるということ

④ 無限に意味を問いつづけようとする内面をもち、作品に内面性の提示を求めようとする、多くの孤独な人々がいるということ

⑤ 芸術における内面の物語から、過剰な意味を呼びこみつづけたため、自らの内面を見失い孤独になってしまった多くの人々がいるということ

問8 次の一文は、文章中の

A

～

E

のいずれかに入る。最も適切な箇所を、あとの①～⑤の中から一つ選んで

マークしなさい。

20

このパターンは他のすべての芸術にもあてはまる。

① A

② B

③ C

④ D

⑤ E